

科目名	医学基礎・臨床医学入門	code : OEH 351	必修(*)	2 単位
-----	-------------	----------------	-------	------

科目責任者	竹内 武昭 講師						
配当年次	1年次	配当学期	前期	曜日・時限	月曜 1、2時限	授業方法	講義

到達目標	公衆衛生の実務者となるうえで必要とされる医学的知識を包括的に理解すること、基本的な疾患の病因・病態を理解することを到達目標とする。
------	---

授業の概要	<p>臨床医学の入門となる必須事項を適切に理解するための講義をする。医療系出身者以外の学生への配慮から、まず人体の構造と機能について理解するため、細胞レベルから臓器レベルに至るまでの解剖学、生化学、生理学など基礎医学全般を学ぶ。そうした基礎医学の学習の中で「病気」と「健康」を分ける根拠は何であるか、個人と集団それぞれの見地からアプローチする。臨床医学は、消化器、循環器、呼吸器、腎・泌尿器、神経・筋、内分泌・代謝、メンタルヘルス、免疫・アレルギー、感染症、血液、悪性新生物、中毒の各分野に分け、各種疾患を理解するための基本的事項を中心として、病気の成り立ちを理解するため重要な病態生理、病気の診断に必要な各種検査の原理や意義、最新の治療技術などについて学ぶ。理解を助けるためにビデオ学習を積極的に取り入れる。</p> <p>*:非医療系の学生のみ必修</p>
-------	--

授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容
	1	4/13(月)	1	竹内 武昭 講師	医学の定義・歴史
2	4/13(月)	2	竹内 武昭 講師	医の倫理	
3	4/20(月)	1	顧 艶紅 講師	メタボリックシンドローム・健康増進	
4	4/20(月)	2	顧 艶紅 講師	人口統計と疾病の変化	
5	4/27(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構成	
6	4/27(月)	2	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:骨・筋肉	
7	5/1(金)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能:呼吸器系	
8	5/1(金)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学:呼吸器疾患・中毒性疾患	
9	5/11(月)	1	中田 義規 教授	人体の構造と機能:循環器系	
10	5/11(月)	2	中田 義規 教授	臨床医学:循環器系疾患	
11	5/18(月)	1	山本 秀樹 教授	人体の構造と機能:消化器系	
12	5/18(月)	2	山本 秀樹 教授	臨床医学:消化器系疾患	
13	5/25(月)	1	高橋 謙造 准教授	主要症状	
14	5/25(月)	2	高橋 謙造 准教授	主要症状	
15	6/1(月)	1	竹内 武昭 講師	人体の構造と機能:神経系	
16	6/1(月)	2	竹内 武昭 講師	臨床医学:神経筋疾患・運動器疾患	
17	6/8(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:生殖器系	
18	6/8(月)	2	高橋 謙造 准教授	臨床医学:婦人科疾患・小児疾患	
19	6/15(月)	1	高橋 謙造 准教授	人体の構造と機能:皮膚・感覚器系	
20	6/15(月)	2	高橋 謙造 准教授	臨床医学:皮膚疾患・眼疾患・耳鼻科疾患	
21	6/22(月)	1	竹内 武昭 講師	人体の構造と機能:血液、臨床医学:血液・造血器疾患	
22	6/22(月)	2	竹内 武昭 講師	臨床医学:感染症	

授業計画	23	7/6(月)	1	中尾 睦宏 教授	臨床医学:精神疾患
	24	7/6(月)	2	中尾 睦宏 教授	臨床医学:精神疾患
	25	7/13(月)	1	内田 俊也 教授	人体の構造と機能:泌尿器系・内分泌系
	26	7/13(月)	2	内田 俊也 教授	臨床医学:代謝内分泌疾患・腎泌尿器疾患
	27	7/23(木)	1	顧 艶紅 講師	臨床医学:アレルギー疾患・遺伝病
	28	7/23(木)	2	顧 艶紅 講師	臨床医学:母子保健
	29	7/27(月)	1	竹内 武昭 講師	まとめ・テスト
	30	7/27(月)	2	竹内 武昭 講師	まとめ・テスト
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの各項目と事前配布資料(ある場合)を講義前に必ず熟読してくること。</li> </ul>				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学概論(コメディカルのための専門基礎分野テキスト)[単行本]北村 諭(著) 出版社: 中外医学社; 5版</li> </ul>				
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適時、講義時に紹介する。</li> </ul>				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の課題、試験、課題レポートの提出状況を総合的に評価して判定する。</li> </ul>				

科目名	公衆衛生倫理学	code : ID 201	必修	1 単位
-----	---------	---------------	----	------

科目責任者	中尾 睦宏 教授						
配当年次	1年次	配当学期	前期(前半)	曜日・時限	水曜 4時限	授業方法	講義

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療の現場において意思決定を行う際に必要な医療倫理の基本的な知識・考え方を身に付ける。</li> <li>倫理的観点から対応が困難と想定される事例において、自分の考えを述べることができる。</li> </ul>						
授業の概要	<p>公衆衛生領域の政策決定や臨床現場で必要となる倫理的判断の基礎について学ぶ。ヒポクラテスの誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言といった生命倫理と医の倫理に関する規範の意味やその歴史的流れをふまえながら、患者の基本的権利について理解する。真実の告知、インフォームド・コンセント、パターナリズム、死の受容、安楽死、尊厳死などの具体的問題に対して、事例を通じた討論を行う。さらに医師法や医療法といった関連する医事法制を整理し、守秘義務、応召義務、医学的無益性、医療資源の配分、メタ倫理といった様々な倫理的問題についても学ぶ。</p>						
授業計画	回数	日付	時限	担当者	授業内容		
	1	4/8(水)	4	中尾 睦宏 教授	医療・公衆衛生倫理学総論 医療倫理に関する歴史的背景を中心に、概略について学ぶ。		
	2	4/15(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	医療従事者・患者関係 医療従事者が患者関係を築く上で必要となる基本的事項について学ぶ。		
	3	4/22(水)	4	竹内 武昭 講師	終末期医療 終末期医療(安楽死、尊厳死を含む)の現状を学ぶとともに、医学的無益性や医療資源の配分といった観点を含めて検討し、その問題点について討論する。		
	4	5/8(金)	4	中尾 睦宏 教授	公衆衛生倫理学の実際 医学的研究を行うに当たって必要な倫理的知識、具体的な倫理申請の手続きなどについて学ぶ。		
	5	5/13(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	インフォームド・コンセント 患者の権利、インフォームドコンセントについて、その歴史的背景、法的根拠などについて学ぶ。		
	6	5/20(水)	4	瀧本 禎之 講師(非)	ケース・アプローチ 臨床現場で遭遇する具体的な倫理的問題を分析する手法を学ぶ。		
	7	5/27(水)	4	井上まり子 講師	公衆衛生倫理(1) 公衆衛生倫理学の沿革、主要な倫理的課題、アプローチ方法について学ぶ。		
	8	6/3(水)	4	井上まり子 講師	公衆衛生倫理(2) パターナリズム、正義など主要な考え方の整理を行い、ケーススタディを用いて討論する。		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回の授業内容で分からない専門用語があれば、次回までにその意味等を復習して理解しておくこと。</li> </ul>						
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定のテキストは設けない。必要に応じて資料を配布する。</li> </ul>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に指定なし。</li> </ul>						
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>上記到達目標を確認するレポートやディスカッションを課す。講義の課題、レポートやディスカッションの内容を総合的に評価する。</li> </ul>						

科目名	課題研究	code : ID 500	必修	6 単位
-----	------	---------------	----	------

科目責任者	各指導教員						
配当年次	1・2年次	配当学期	前期・後期	曜日・時限	金曜 1-5時限	授業方法	演習・実習

到達目標	<p>国内外の現場で発生する公衆衛生上の諸問題に対して、各々の専門領域で指導的立場で問題解決型の対処ができる、すなわち現場での実践に資する高度専門職業人養成の集大成として課題研究を行う。</p> <p>到達目標は、講義・演習科目を通じて学んだ知識の体系化を図ることにある。すなわち、各人材養成像に沿ったコースワークの後半期間を用いて、より専門的・実務的な研究課題として取り組み、学んだ知識を実践の場に還元できる能力を身に付けるものである。この高度専門職業人に資する実務適応能力を身に付けるため、プラクティカルな要素が有効であると考え、課題研究の期間内に学習手段の一つとして短期間の現場実習、現場見学、専門家(指導教員)との協働、フィールドワーク、シミュレーションワーク等を含めるものとする。</p>
------	---

授業の概要	<p>特定の課題について個別に研究の実践、指導を行い、現地でのフィールドワーク、調査、情報収集、分析等を経て研究報告書を作成する。実習先での現場実習や現場見学を含む場合には実習報告書を提出する。課題研究を指導する教員(学内)・指導者(学外)を定め、受講生は研究指導を受ける。</p>
-------	---

	回数	日付	時限	担当者	授業内容
授業計画	<p>授業計画欄に記載のある分野別のテーマ毎に研究指導教員と学生間にて授業日程(指導日程)を個別に設定する。</p> <p>課題研究に関する中間報告会と最終報告会を実施し、報告内容を専任教員が評価を行う。</p> <p>○オリエンテーション : 平成27年4月6日</p> <p>○合同ガイダンス : 平成27年4月16日</p> <p>○課題研究テーマ提出 : 平成27年7月6日-10日(予定)</p> <p>○研究計画・中間報告会 : 平成27年7月30日(予定)</p> <p>○中間報告会 : 平成27年10月8日(予定)</p> <p>○最終報告会 : 平成27年12月17日(予定)</p> <p>(上記日程に関しての詳細は別途指示)</p>				

事前準備	<p>・各指導教員より指示あり</p>
------	---------------------

テキスト	<p>・特に定めない・各指導教員より指示あり</p>
------	----------------------------

参考書	<p>・各指導教員より指示あり</p>
-----	---------------------

評価方法	<p>・各研究課題に関する報告会で専任教員による審査による。外部での実習・現場調査を含む場合は報告書と受け入れ先の評価結果も審査の対象となる。</p>
------	---

#### 授業計画(分野別)

【疫学・臨床疫学の課題研究/指導教員: 矢野栄二・福田吉治・大脇和浩(非常勤講師)・顧艶紅・桑原 恵介】

講義・演習で学んだ臨床疫学研究の知識を用い、関心のあるテーマで研究を行う。実際にPubMedやコクランライブラリーを用いて、系統的レビューを行い、研究仮説を立てる。研究対象は自分の持つデータから厚生労働省統計局ホームページで入手できる二次データまで広範囲に扱い、データセットを作成するという実務と同様の作業を経験する。統計学的な処理・結果の解釈を加えたのちに研究報告書としてまとめる。従って、本課題研究では研究報告書と作成したデータセットをその研究成果とする。

尚、本課題研究は、臨床疫学専門家を志す学生を対象とする。

## 授業計画(分野別)

### 【生物統計学の課題研究/指導教員:山岡和枝・松浦正明・根本明日香】

講義・演習で学んだ生物統計の知識を用い、臨床研究等、医薬分野のテーマについて、研究計画・解析計画をたて、データを収集し、データの特性に応じた要約、解析を行い、報告書としてまとめるまでの一連の研究を行う。

課題においては、解析は統計ソフトを用いて行う。自分で収集したデータを課題研究対象とする。一連の解析結果を発表し、質疑応答の結果をふまえ、統計解析報告書を作成する。データ解析の内容及びそれぞれのテーマに応じ作成した統計解析報告書をもとに研究報告書を作成する。従って、本課題研究では研究報告書と統計解析報告書(解析結果)をその研究成果とする。研究解析報告書を作成するまでの一連の過程は、臨床試験に係わる実務家(臨床試験統括医師、臨床試験看護師、解析実務家)が理解し報告書作成の技能を修得することが必要であるが、一方で臨床試験におけるそれぞれの職能に応じた役割・責任や、他職能との連携の重要性についても作業プロセスを通じて身に付ける。

### 【行動科学・健康教育学の課題研究/指導教員:中尾睦宏】

講義・演習で学んだ行動科学・健康教育の知識を用い、下記のような現実に発生している問題(テーマ)に対して実際の情報・活動に触れながら研究を行う。

行動科学系テーマ:日本の自殺予防対策の現状と将来戦略

日本では1997年より自殺者数が年間3万人を超える状況が続いており、その対策は公衆衛生的に重要な問題となっている。国立精神神経センターにある自殺予防総合対策センターでは地域での取り組みや医療機関での取り組みについて情報の収集・分析をしているので、その活動に参加して課題研究(実習を含む)を行う。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、行動科学・健康教育の専門家(メンタルヘルス)を志す学生を対象とする。

健康教育学系テーマ:労働者の健康教育とメンタルヘルス

変化が激しい社会経済状況の下、職域では多様化する雇用・就労形態、過重労働による健康影響、メンタルヘルスの問題の急増など労働者の就労環境は厳しさを増している。横浜労災病院にある勤労者メンタルヘルスセンターでは同病院の心療内科と提携して、労働者のメンタルヘルス相談や生活習慣指導、予防医学的なストレスマネジメントなどに積極的に取り組んでいる。その活動に参加して課題研究(実習を含む)を行う。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、行動科学・健康教育の専門家(職場のメンタルヘルス、生活習慣指導)を志す学生を対象とする。

### 【行動科学・健康教育学の課題研究/指導教員:竹内武昭】

講義・演習で学んだ行動科学・健康教育の知識を用い、生活習慣と行動変容をテーマとした研究を行う。

日本人の3大死因(がん、心臓病、脳血管疾患)、さらに、精神疾患(うつ病、睡眠障害など)にも長年の生活習慣が深く影響している。これらの生活習慣病は予防可能とされる一方、実際の対応策は難しいとされている。病院、職域、学校などで実際に生活習慣病の予防と治療に従事している専門家の活動(指導教員の本学付属病院における実際の取り組み)を通して、生活習慣と行動変容の関係を深く学ぶ。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、行動科学・健康教育の専門家(メンタルヘルス、生活習慣予防)を志す学生を対象とする。

### 【終末期医療の課題研究/指導教員:中尾睦宏】

講義・演習で学んだ行動科学・健康教育の知識を用い、主に末期がん患者の在宅ケアを中心課題とした課題研究を行う。具体的には、緩和ケアクリニック(医療法人社団バリアンクリニック川越)での実習を通じて、外来診療、訪問診療、他職種との連携の実際を学ぶ。その具体的な目標は、バリアンにおける先進的な在宅医療、ホスピスケアに触れることにより、これからの臨床医としての基盤を作ることである。

在宅医療としては、在宅で実施可能な医療の内容、具体的な施行方法や問題点を学ぶことが目標であり、ホスピス・緩和ケアとしては、家族ケア、トータルケアの概念、特にスピリチュアルケアについての洞察を深め、グリーフケア、地域への啓発活動などを学ぶ。とりわけ、地域におけるチームアプローチ、いわゆるInterdisciplinary Team Approachの実際を他職種の専門家と協働して学ぶことも大きな目標である。短期間で多くの課題を学ぶことになるが、研修を受ける者の将来の専門領域がより深まるよう、課題を持って研修できるようなプログラムを準備している。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、行動科学・健康教育の専門家(がん終末期医療)を志す学生を対象とする。

### 【社会疫学の課題研究/指導教員:福田吉治・井上まり子】

講義・演習で学んだ社会疫学の知識を用い、健康の社会的格差とその縮小ならびに公衆衛生の向上を課題とした研究を行う。特に、(1)健康の社会的格差の状況と背景の把握ならびに機序の解明を基にした政策の立案・実施・評価、(2)非正規雇用者、高齢者、一人親家庭等の個別集団の健康問題とその解決、(3)健康の地域格差に関連する医療・保健等のヘルスキアの質的および量的評価に基づく政策立案、(4)健康の社会的格差を縮小させるための行動経済学の応用、などを個別テーマとする。本研究課題では、エビデンスの蓄積だけでなく、具体的な政策立案から評価までの過程を含めた研究報告書を研究成果とする。

尚、本課題研究は、医療、地域保健、産業保健等を含む保健行政と実務の専門家を志す学生を対象とする。

## 授業計画(分野別)

### 【医療管理学の課題研究/指導教員:中田善規】

講義・演習で学んだ医療管理や医療経済、医療経営の知識を用い、帝京大学医学部附属病院での実習を通じて、管理経営者が日常直面する医療管理上の問題点を実際に体験し、その解決策を優先順位を付けて提案できる能力を身につけることを目標とする。さらにその解決策のコストとベネフィットを理解し、組織運営上の最適解を決定し、その具体的な実行方法まで踏み込んで考えられるようにする。こうした経営分析手法の科学的根拠となるのは、医療経済学の講義で学んだマイクロ経済学や医療管理学の講義で学んだ組織行動学などが中心となる。こうした病院管理者の活動に参加して課題研究を行う。従って、本課題研究では研究報告書(実習報告書も含む)をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、医療管理(医療経営、コメディカル部門管理、病院事務管理)の専門家を志す学生を対象とする。

### 【保健行政の課題研究/指導教員:山本秀樹・井口直樹】

講義で学んだ保健医療政策の知識を用い、世界的に急速に高齢化が進展しつつある我が国が直面する高齢者の医療制度、介護保険制度の政策の基礎情報の分析を通じて課題研究を行う。指導教員がこれまでの研究事業で実施してきた協力施設と連携して、施設ケアの質の評価となるQI(Quality Index)のデータ収集や国民生活基礎調査等の公的データを利用した分析と政策研究の実務経験を織り交ぜながら研究を行う。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、保健行政の専門家を志す学生を対象とする。

### 【国際保健の課題研究/指導教員:高橋謙造・井上まり子】

講義・演習で学んだ国際保健の知識を用い、受講生のバックグラウンド(経歴・資格)に応じて公衆衛生に関連した、課題研究・実務研修(インターンシップ)を実施する。

国際保健の業務上生じる課題解決能力の向上を図るために、特定のテーマの元に、文献や二次データを活用した研究や、連携研究機関(タイ国・チュラロンコン大学、コンケン大学、インドネシア・バンダアチエ大学、スリランカ・国立保健科学院、バングラデシュ・バングラデシュ工科大学、バングラデシュ国際下痢研究所(ICDDR-B)、ザンビア大学、タンザニア・ムヒンビリ大学等)と協力して現地研究調査を行い(例:気候変動と健康影響、津波・洪水災害復興調査など)、研究報告書を作成する。なお、国際保健での実務経験を積む必要のある受講生については、課題研究期間中に国際協力機関等での受け入れ研修を検討する。現地での実務経験の内容をベースに研究報告書を作成し、それを成果とする。

尚、本課題研究は、国際保健の専門家を志す学生を対象とする。

### 【地域保健学の課題研究/指導教員:高橋謙造】

講義・演習で学んだ、実践において生じた疑問や仮説に対して行うPractice based researchの方法論を用いて、(保健、福祉などを含む広義の)地域医療の現場で発生している臨床あるいは社会医学的テーマについての研究を行う。そのことにより、学習者が将来業務を行う中での研究テーマに気づき、それについての解明を現場で自らが行え、その成果を情報発信する能力を取得することを目標とする。また、Practicebased researchは研究の端緒から主体的に行えることから、研究における自己研鑽能力を涵養することも主眼とする。

研究テーマは、本来的には学生自身がこれまでの経験から得られた研究仮説・疑問を基に学生自身のデータに対して行う。しかしながら、当課題研究においては、①実践を通じて得られた疑問や仮説を、2次的データを使用して解明する、②指導教員との討論のもとに、提供するデータについての疑問や仮説を主体に作成し解明する、これらのタイプの研究も含める。

本課題研究は、将来においても主体的にPractice based researchを実践する地域保健の専門家たる志を持つ学生を対象とする

### 【医療情報の課題研究/指導教員:中田善規】

講義・演習で学んだ医療管理や医療経済、医療経営の知識を用い、大規模病院における電子カルテの導入効果や検討課題等について実際の医療現場での調査を通じて課題研究を行う。

2006年の「IT新改革戦略」の中で、「電子カルテやオーダーリングシステムを2010年度までに200床以上の医療機関のほとんどに導入する」などと記載されているものの、その達成は既に絶望的である。帝京大学付属病院でも今まで何度も電子カルテ化を計画したものの、各種オーダーリングシステムの導入のみに留まっていた。しかし今回、新病院への移行に伴い、電子カルテの導入に成功している。そこで、今回の電子カルテへの移行にかかわった職員や実際に電子カルテに接する医師・コメディカル等に対して、移行前後での問題点や意識・行動の変化、医療の現場での効用や経済効果を調査解析し、今後の大規模病院の電子カルテ化に資するような情報を研究報告書としてまとめる。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、医療管理(医療情報システム)の専門家を志す学生を対象とする。

## 授業計画(分野別)

### 【環境衛生の課題研究/指導教員:矢野榮二・原邦夫】

講義や実習で学んだ環境衛生の知識や技術を用い、既に基礎となるデータが一定ある下記の3領域のテーマの中から選択し、関連論文検索・レビュー、研究仮説設定、データ解析、結果をとりまとめ、研究報告書を作成する。従って、本課題研究では研究報告書をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、環境衛生の専門家(作業環境測定士受験希望者も対象)を志す学生を対象とする。

#### 1) 大気汚染物質の動態・大気汚染の健康影響

国内もしくはタイ・バンコクにおける大気汚染測定データを用いて汚染物質の濃度と変動に影響を与える要因を解析する。また行政的な保健衛生統計や医療機関のデータを用いて、大気汚染との関係を調べる。可能であれば現地での環境測定や健康影響調査にも参加する。

#### 2) 産業有害物質の健康影響

国内鉛取り扱い作業場の作業環境測定データと健診データまたは中国石綿取り扱い工場の作業環境測定データと作業者の長期の死因観察データとの関連を調べる。可能であれば現地の調査にも参加する。

#### 3) 事業所の健康管理データ

10年以上の長期に観察されている事業所の健康診断データを経時的に観察し、労働者の就業・雇用状況と生活習慣の影響を、年齢、コホート、時代モデルを用いて解析する。

### 【産業保健の課題研究/指導教員:矢野榮二・原邦夫】

講義や実習で学んだ産業保健の知識や技術を用い、指導教員と相談し個別にテーマ設定し課題研究を行い研究報告書としてまとめる。また、希望者に対しては、企業の工場内の労働衛生管理・産業保健担当部署における実際の作業現場で実務を見学、可能な範囲で自ら参画し、現場における実務を経験・学習する。従って、本課題研究では研究報告書(実習参加者は実習報告書も含む)をその研究成果とする。

尚、本課題研究は、産業保健の専門家(労働衛生コンサルタント受験希望者も対象)を志す学生を対象とする。

### 【災害復興特別課題研究/指導教員:帝京大学石巻研究班(矢野榮二他)・武藤真祐(非常勤講師)】

東日本大震災で最も人的被害の大きかった、宮城県石巻市において在宅医療施設を開業している祐クリニックおよび石巻医療圏・健康生活復興協議会(RCI)と協力して、被災者の健康問題の調査、地域の復興等の諸問題について調査研究活動に参加し、その中で研究課題を見つけ調査研究としてまとめる。

## 調査・研究法概論

科目責任者：高橋謙造、井上まり子

配当学期：前期

曜日、時間：水、木（暫定） 昼休み

本講においては、MPH 取得の上で是非身に付けておくべき、調査・研究法の基礎（情報の入手・管理法、情報の分析法、情報の表出法：output）について習得することを目的とする。加えて、本学の特徴である、問題解決型アプローチの実例についても紹介する。効率的かつ確実な業務・研究の取り回しは、仕事の成果を左右する。このような理解の上に、幅広い視点から調査・研究法の基礎を学び、実践できることを目標とする。

1. 問題解決型アプローチの実践例-日々の疑問を調査・研究につなげる-：-高橋謙造准教授、井上まり子講師
2. ファイルの行方不明をなくす-ファイル名管理法 -高橋謙造准教授-
3. 文献検索と英文を効率よく読む方法 -井上まり子講師-
4. 論文管理データベースと Journal Alert 登録 -高橋謙造准教授-
5. 倫理審査の心得、手順 -中尾 睦宏教授、竹内武昭講師-
6. 質問票とスケールの基礎 -竹内武昭講師-
7. 質問票調査の手順（サンプリング・サイズ決定、サンプリング法、フィールドとの交渉法）-高橋謙造、桑原恵介助教-
8. 入力：Excel シートのデザイン、ダブル・エントリーと代替法、データクリーニング -高橋謙造准教授-
9. Excel 活用法（関数、ピボットテーブルなど） -高橋謙造准教授-
10. Academic Writing Method1：Thesis statement -高橋謙造准教授-
11. Academic Writing Method2：Synthesizing an manuscript -井上まり子講師-
12. 英文による CV の書き方、自己アピール法 -山村朋子助手-